牧師 columnNo.425

“一を聞いて十を知る”

いろはかるたに“一を聞いて十を知る”という言葉があります。察しの良さを意味する諺です。察しのいい人は、観察力、把握力があり物事を選択する力があります。約束の地を信じたカレブにアクサという娘がいました。彼女は、結婚の祝いに金銀ではなく上の泉と下の泉を求めました。乾燥した地において泉は最も重要でした。彼女の賢い選択は、夫の祝福となりました。私たちは、毎日何かを選択してながら生きています。自分が選択したものが結果を刈り取ることになります。物事をしっかり観察し、今何が必要であるかを把握し、良いものを選ぶそんな賢さを求めましょう。自分を見ると十を聞いてもやっと一が分かるそんな察しの悪さを覚えまが、目や耳を働かせて何が神の心にかなうのかを見分けて選ぶ、そんなスマート(賢い)人生を歩みましょう。

アクサは言った。「私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、

湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。聖書